

## 令和4年度保育サポーター研修会

と き 令和5年3月5日(日) 10:00～

ところ 山口県医師会6階会議室

[報告：男女共同参画部会理事 戒能 美雪]

子育て中の医師が働き続けることができるよう、育児のサポートをしてくださっている保育サポーターを対象とした研修会が対面で行われ、県内各地より20名が参加された。

男女共同参画部会長で保育サポーターバンク運営委員長でもある黒川典枝先生から活動状況が報告され、この活動が多くの医師の支援になっているとお礼を述べられた。

引き続き、「乳幼児の発達と関わりについて」というタイトルで、やまぐち子育て福祉総合センター所長の林和子先生にご講演いただいた。先生は幼児教育アドバイザーであり、公立の保育園・幼稚園に勤務してこられ、現場での豊富な実践経験をお持ちである。現在は所長として保育者の研修だけでなく、家庭支援等も行われている。ご講演の途中では、子どもが喜ぶ歌いながらの手遊びを披露され、温かい雰囲気での研修会となった。以下に、その講演要旨を報告する。

乳幼児期は人間形成の基礎となる重要な時期である。子どもは大人に保護され、養育されながら成長していく。一人一人に応答的なかわりを行うことで、望ましい発育・発達を続け、人間として必要なことを身につける。また、人への信頼感と自己肯定感が育まれる。

非認知能力は、物事に対する考え方や取り組む姿勢・行動など、日常生活・社会活動において重要な影響を及ぼす能力(例:頑張る、乗り越える、あきらめない、集中力など)である。0～2歳の時期に大人から応答的で丁寧な関わりを受けていると、その発達が促される。「自分は、いつでも受け入れてもらえる存在だ。」「存在価値のある存在だ。」という自己肯定感が育つと、「もっ

と頑張ってみよう。」という前向きな情動や向上心が生まれ、非認知能力の基盤になる。

保育サポーターの関わりについて、各成長期におけるポイントを述べる。

【乳児期】スキンシップや声かけを大切にあげることによって、自分と人への信頼感が育まれる。

【1歳3か月～2歳まで】子ども自身の発見や驚きに共感し、受け止めることが大切である。子どもと向かい合って、気持ちを理解し、成長を実感する。

【2歳ごろ】「イヤ!ダメ!」など自己主張をする時期であるが、これは自我が育った証拠であり、ゆったりと安心して向き合うことが重要である。

【3歳ごろ】子どもの心の動きを察して、共感し、励まそう。そうすることで、子どもは身近な人の気持ちが分かるようになり情緒は一段と豊かになる。

今回の講演では、以下の2点をtake-home messageとして強調された。

◎子どもを慈しみ、愛しましょう。

愛着関係、基本的信頼感、自己肯定感が育まれます。

◎気持ちをしっかりと受け止め、応答的に関わりましょう。

一人の人間として、ていねいに優しく応えていくことで、コミュニケーション力が育まれます。

保育サポーター活動に対するモチベーションにつながる、大変興味深いご講演であった。そして、「子どもたちは社会で育っていく。」というお言葉に感銘を受けた。